

A区分・C区分共通

No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	人形劇
----	----	----	-----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんげんたいにんぎょうげきせんたー		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人現代人形劇センター		http://www.puppet.or.jp/
代表者職・氏名	理事長 塚田千恵美		
制作団体所在地	〒	211-0035	最寄り駅(バス停) 井田営業所
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
電話番号	044-777-2228		
ふりがな 公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ		団体ウェブサイトURL
			http://deaf.puppet.or.jp/index.html
代表者職・氏名	代表 榎本トオル		
公演団体所在地	〒	211-0035	最寄り駅(バス停) 井田営業所
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
制作団体 設立年月	1969年4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事:塚田千恵美 業務執行理事:松澤文子 理事:大杉豊、小川信夫、平野 英俊、北條秀衛、築瀬恵子 監事:桑野雄一郎		理事:7名 評議員:7名 監事:1名 職員:8名
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	吉村 衣世
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	菅原 真弓
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	iyo.yoshimura@puppet.or.jp		

<p><b>制作団体沿革・ 主な受賞歴</b></p>	<p>1969年 4月 文部省より財団法人設立認可、乙女文楽、和泉流狂言の稽古を開始  1970年 全国のからくり人形の本格調査開始  1973年 海外人形劇団招聘事業開始  1974年 出版事業開始  1975年 全国の伝統人形芝居の本格的調査開始、ヨーロッパ人形劇の実情調査開始  1978年 アジア人形劇の実情調査開始  1979年 国際児童年記念「人形劇カーニバル飯田」を提唱、事務局を担当  1980年 ろう者と聴者との協同による人形劇団デフ・パペットシアター・ひとみ 設立  1983年 デフ・パペットシアター・ひとみ初海外公演(チェコ)、  国際デフ・パントマイム・フェスティバル審査員特別賞受賞  2011年 4月 公益財団法人へ移行</p>			
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>2011年度 12校で公演、ワークショップ  2012年度 11校で公演、ワークショップ  2013年度 25校で公演、ワークショップ  2014年度 20校で公演、ワークショップ  2015年度 20校で公演、ワークショップ  2016年度 17校で公演、ワークショップ  2017年度 19校で公演、ワークショップ  2018年度 24校で公演、ワークショップ  2019年度 16校で公演、ワークショップ  2020年度 8校で公演、ワークショップ  2021年度 11校で公演、ワークショップ  2022年度 12校で公演、ワークショップ  2023年度 14校で公演、ワークショップ</p>			
<p><b>特別支援学校等 における公演実績</b></p>	<p>2011年度 28校で公演、ワークショップ  2012年度 15校で公演、ワークショップ  2013年度 3校で公演、ワークショップ  2014年度 6校で公演、ワークショップ  2015年度 14校で公演、ワークショップ  2016年度 4校で公演、ワークショップ  2017年度 16校で公演、ワークショップ  2018年度 15校で公演、ワークショップ  2019年度 13校で公演、ワークショップ  2020年度 (5校 感染症予防対策によりワークショップ中止)  2021年度 3校で公演、2校でワークショップ(4校感染症予防対策により中止)  2022年度 7校で公演、12校でワークショップ  2023年度 8校で公演、ワークショップ  *ろう学校またはろう者の児童が中心の支援学校を含みます。</p>			
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/xmj62D-l2PU">https://youtu.be/xmj62D-l2PU</a></p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

別添	なし
----	----

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 **デフ・パペットシアター・ひとみ**】

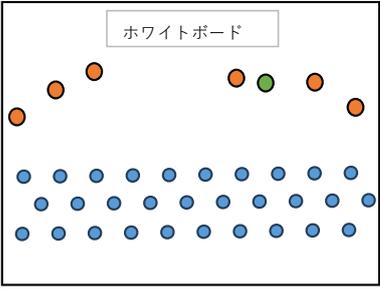
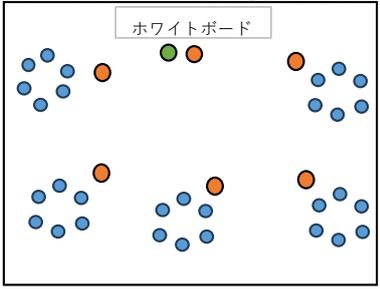
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	ろう者と聴者が共につくる 人形劇『河の童-かわのわっぱー』			
企画のねらい	デフ・パペットシアター・ひとみは、ろう者と聴者が一緒に人形劇を創作・上演しています。ろう者・聴者の劇団員がそれぞれの感性を生かした、セリフを最小限にした視覚的な演出が特徴です。音声言語に頼らない、ろう者の参加する芸術作品に触れることで、子供たちの想像力を刺激するとともに、他者理解を深める機会となることを期待します。			
演目概要・演目選択理由	演目概要:みんなそれぞれ、見えている世界は、バラバラだ——村はずれの井戸に棲む一匹の河童と村の人々との物語。2018年初演の本作は、ろう者と聴者がともに作るデフ・パペットシアター・ひとみが、劇団創立以来常に向き合ってきた「共生」をテーマに描いた作品。河童と人間のドラマを通じ、自分ではない誰かと共に生きていくことに思いを寄せられた作品です。演目選択理由:申請作品『河の童-かわのわっぱー』は、セリフを最小限にした、身体・人形による視覚的な演出を多く取り入れた作品で、幅広い年齢の子供に見てもらうことのできる作品です。			
児童・生徒の参加又は体験の形態	公演の前に新聞紙等を使ったワークショップを行います。演目『河の童』の劇中に、たくさんの「あやかし」が紹介されるシーンがあります。ワークショップでは、子どもたちがグループに分かれて、新聞紙など身近な素材を使って「あやかし」を創作し、音声によるセリフを使わずに表現することに挑戦します。本公演の一場面、創作した「あやかし」を発表してもらいます。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	30人程度	
		鑑賞人数目安	250人まで	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	人形劇『河の童-かわのわっぱー』 原作:火野葦平「河童曼陀羅」(国書刊行会) 脚本・演出:立山ひろみ 人形美術:本川東洋子 舞台美術:大島広子 振付:向雲太郎 作曲・音楽:佐藤望 舞台監督:鈴木文 照明:後藤義夫			
	80 分			
出演者	デフ・パペットシアター・ひとみ 榎本トオル、鈴木文、やなせけいこ 他3名			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	脚本・演出:立山ひろみ/劇作家、演出家。宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター。パフォーマンス演劇ユニット「ニグリノード」主宰。 出演:榎本トオル/デフ・パペットシアター・ひとみ代表。ろう者。1991年に入団し、同年『さくらものがたり』でデビュー。NHKドラマ『デフ・ヴォイス』出演等、他ドラマ・舞台への出演多数。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 6 名	運搬	積載量: 4 t	
	スタッフ: 4 名		車長: 8.8 m	
	合計: 10 名		台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		有	前日仕込み所要時間		4	時間程度		
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出		
	8:00	8:00		11:30~14:25	0:00	14:25~18:00	18時00分		
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。								
本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期について は、採択決定後に確認し ます。(大幅な変更は認め られません)	6月		7月		8月		9月		
							20日		
	10月		11月		12月		1月		
	22日		10日						
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		52日	
公演に係るビジュアル イメージ (舞台の規模や演出が わかる写真)  ※採択決定後、図 面等の提出を願 いします。	持ち込みベンチ無し			持ち込みベンチあり					
									
	体育館フロアに舞台を設置します。 舞台設置に必要な面積 幅12m×奥行6m 高さ3.6m以上								
	<p>あらすじ</p> <p>河童は、のんびり、平和に暮らしています。井戸は自分の井戸で、鯉やゲンゴロウ、蟹なんかと一緒に、ゆったりゆらゆら。水はキラキラ輝いていて、世界は、そこにすべてがあります。足りないものなんてどこにもなくて。にんげんに会うと、攻撃されたりするので、なるべく会わないようにしています。でもにんげんの小さいの、こどもと遊ぶのは大好きなので、たまに相手をしてやります。</p> <p>村に雨が降らなくなったある時、突然にんげんたちは、それを河童のたたりだと考えて・・・。</p> <p>河童とこどもたち、そしてある少女との交流、おとなになったにんげん達と河童をめぐる物語。</p>								
									
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否			該当なし		該当コンテンツ名			
	該当事項がある場合	権利者名		許諾確認状況			内部保有		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 **デフ・パペットシアター・ひとみ** 】

ワークショップのねらい	<p>ワークショップでは、児童達に物語の世界観を共有し、実際に演じてもらいます。その上で公演を鑑賞することで、作品世界へ入り込みやすくなる効果を狙います。また、言葉を使わず表現をする方法を遊びを通して体験することで、子供たちの表現の幅を広げることを目的とします。グループで創作することで、他者と協力することで新しい発想や表現が生まれることの喜びを得ることを期待します。また、デフ・パペットシアター・ひとみはろう者と聴者が一緒に活動をしている劇団であるため、異なる言語・文化を持つ者同士がどのようにコミュニケーションをとるのかを学び、社会の多様性や共感性を学ぶきっかけとなります。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	30人程度
ワークショップ実施形態及び内容	<p>標準:90分 ※公演当日にもリハーサルを実施します。</p> <p>① <b>アイスブレイク</b> 講師による、身体や頭をやわらかくするゲーム形式のワークショップ。ゲームを通し、ろう者とのコミュニケーションにおいて大切なこと＝視覚的に伝える ということを体験します。</p> <p>② <b>講師によるデモンストレーション</b> 本ワークショップでは、新聞等を使用して自由な形を作った人形を作ります。プロの人形劇俳優による、新聞紙などのモノが、「あやかし」となり、まるで生きているかのように動かす実演をします。</p> <p>③ <b>グループに分かれて創作</b> 複数のグループに分かれて、新聞紙等を素材に、自由な発想で「あやかし」を創作します。創作過程で偶然に生まれた形や動きも取り入れていけば、思いもよらない「あやかし」が生まれます。各自がつくった「あやかし」が、どう動くのか。どこに生息していて、何を食べて、など、講師とコミュニケーションを取りながらイメージを広げ実際に動かしてみます。音声言語に頼らない人形劇の表現に挑戦します。 &lt;休憩 5～10分&gt;</p> <p>④ <b>子どもたちの発表</b> 創作した「あやかし」を、それぞれグループごとに発表します。子供たちも他グループと発表を見せあうことで、発想を共有したり、自分で表現することに自信を持つことを期待します。子供たちの表現したいことをより効果的に舞台上で発表するためにはどうすればいいのか、講師からのアドバイスをを行います。</p> <p>⑤ <b>劇中で動かす練習</b> 本公演中の一場面で、子ども達にそれぞれ自作の「あやかし」を持って表現してもらいます。劇中で参加するタイミングなど説明し、実際に動いてみます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>ワークショップの形態 ●…児童生徒 ●…講師 ●…手話通訳※学校によって派遣します</p> <p>ワークショップ行程 ①・②・④・⑤のとき↓</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="456 1756 836 2045"> <p>ホワイトボード</p>  </div> <div data-bbox="978 1756 1358 2045"> <p>ホワイトボード</p>  </div> </div>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

本事業への応募理由

【公演団体名 **デフ・パペットシアター・ひとみ**】

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

### ①本事業に対する取り組み姿勢

#### 1, 作品鑑賞による児童の感受性の成長

デフ・パペットシアター・ひとみは1980年に結成された、ろう者と聴者が共に活動をするプロの人形劇団です。

ろう者の持つ視覚的に豊かな表現力を取り入れ、新しい人形劇を作ることを目的としています。これまでの44年間の全国での公演活動をし、海外での公演も行うなど国内外で高く評価されている劇団です。

申請作品『河の童～かわのわっぱ～』は2018年の初演以来、国内100箇所以上で公演を実施。小学校・中学校・特別支援学校での公演実績もあり、年齢や障害の有無を超えてたくさんの人たちが楽しむことのできる作品です。

作中にはセリフがほとんどありません。観賞をする児童は、セリフのない中で動きや状況などの視覚的情報や音楽を聴くことによってその場面を想像します。作品をみることにより児童の想像力が刺激され児童のその後の人生がより豊かになることを目標とします。

#### 2, デフ・パペットシアター・ひとみとの触れ合いによる多様性の学習

作品だけでなく、デフ・パペットシアター・ひとみという劇団のことを知ることも児童にとって生きることの大きな経験値の一つとなります。

私たちのような障害を持つ人がプロとして活動をしている文化団体があることを知ることは児童達が今後の人生に於いて多様性を考えることの一助となります。耳の聞こえないことをハンディキャップとしてでなく、それを個性として取り入れることで新しい人形劇を作り出していることを知り、児童の今後の生活での障がいを持つ人との交流がしやすくなくなるきっかけとなると考えます。

#### 3, ワークショップを通じて発想力と想像力を養うこと

作品鑑賞だけでなく、ワークショップでの交流も重視しています。ワークショップは、児童に作品の世界に入り込みやすくなるだけでなく発想力と想像力を養うきっかけにもなります。

また、出演者がワークショップの講師となることで、児童とろう者のアーティストが直接交流をします。普通学校に通う児童にとっては普段ふれあう機会の少ないろう者との交流の機会となり、特別支援学校ではプロとして文化活動に携わるろう者を知ることができます。どちらの学校でも、児童が多様な生き方を知るきっかけとなり、将来に広いヴィジョンをもつことができます。

作品観賞とワークショップ、二つの面で普段とは違う体験をすることで児童達の心に残り、その後の人生をより良いものとしていく経験の一つになることを目指していきます。

### ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

#### 1, 打ち合わせについて

デフ・パペットシアター・ひとみはより多くの人を楽しめるための人形劇を目指しています。これまで小学校・中学校・特別支援学校と多くの学校での公演を経験しています。今回の事業においてもその経験を活かし、学校と連携して適切な対応を取っていきます。

例えば特別支援学校では児童に対するサポートについて適切な対応をとるため、その学校との事前の打ち合わせは念入りに行います。通常学級でも、ワークショップの際にそれぞれの学校の担当先生と打ち合わせをしてその学校や観賞児童にあった対応をするよう心がけます。

#### 2, 実施にあたって

公演の際には通常の体育館のステージでは作品の舞台としては小さいことが想定されます。そのためステージではなく下のフロアに舞台を作ることになると考えています。その場合、客席と舞台が平面になってしまい、舞台見られない児童や見にくい児童が出ることを防ぐため、こちらで3種類のベンチを100人分前後持ち込むことで観賞する児童全てが見やすくなる環境を整えます。

出演者やワークショップの講師にはろう者と聴者がいます。ろう者のコミュニケーションには手話に長けた劇団員の聴者が手話通訳をして行うことができます。また、学校に事前学習資料として「ろう者とのコミュニケーション方法」を簡単に紹介するプリントを共有します。

手話以外にも筆記やホワイトボードを使ってのコミュニケーションなど、児童や先生とのやりとりがスムーズに行えるようにします。学校によっては、手話通訳者も1名参加します。